

インストラクショナルデザインを基盤とした医療機器研修の開発～反転授業・CRI 技法を応用して～

背景

近年高度な医療を支えるために多くの医療機器が使用されている。生命維持管理装置はその役割から教育研修の目が向けられるが、輸液ポンプやシリンジポンプ等の機器は取扱も簡便で、かつ日常的に使われすぎている理由で教育や研修が軽視されがちである。しかし、現実には多くの看護師が日常的に使用し、事故も少なくないのが現状である。そこで当院では、輸液ポンプ・シリンジポンプの研修を重視し効率的・効果的に学べる研修を試行錯誤し実施してきた。

目的

当院で試行錯誤し実施してきた医療機器研修を、より効果的に効率的に実施するために、反転学習や CRI 技法の考え方を取り入れ研修を改善し実施した事例を報告する事を目的とする。

方法

従来の知識注入型研修を改め、操作練習に時間を取れるように事前学習資料として動画（Web 配信）とテキスト、そして事前課題【タスク 0】を作成し予習に重点をおいて研修を再構築した。集合研修では実技の練習と質疑応答、スキルチェックを中心に自分のペースで手技を習得出来るように設計した。

結果

これまでの知識注入型の研修と比べポストテストに差がなく、知識の習得が達成できた。また、これまで実技取得の確認が明確ではなかったが、全員がスキルチェックを受けながらすすめる形式をとり、手技の習得も確認する事ができた。またインタビューの結果からも、「自分の苦手な機器に時間がかけられるので良かった。」という意見を得る事ができた。

結論

タスクとスキルチェックを中心とした研修にする事で、これまで医療機器の研修で達成する事が出来なかった技術習得の確認を実施することができ、従来の研修よりも効果的である事が示唆された。